

# キャッシュレス時代へ

世界最古の中央銀行の総裁が自国における通貨のデジタル化を考察する

ステファン・イングヴェス



写真: PETTER KARLBERG/KARLBERG MEDIA AB

ドやパキスタン、ケニア、タンザニアなど複数の国々で、カードや現金に代わって、携帯電話による支払いが一般的となっている。

## キャッシュレス社会では 法定通貨の意味は何だろうか？

中央銀行の役割が通貨供給量の管理であることを考えると、このキャッシュレス化の動きは、結果として多方面に影響をおよぼす可能性がある。現代の電子決済市場では、決済手段の提供者としての中央銀行は必要だろうか。紙幣や硬貨は、中央銀行が供給すべき唯一のリテール決済手段だろうか。今後、決済市場において、中央銀行が監視すべきような、インフラの集中化が起きる危険性はあるだろうか。

スウェーデンでは、口座間の決済や送金が Bankgirot と呼ばれる1つの決済システムに集中している。決済市場のインフラがいったん整備されると、決済にかかる限界費用は小さく、正の外部性が存在する。では、「正の外部性」とはどのようなことか。電話がその典型的な例として挙げられる。人より先に電話を手にしても、電話をかける相手がいなければあまり価値がない。しかし、最終的に電話回線網に接続する人が増えるほど、電話の価値は増大する。

同じことが決済市場にも当てはまる。決済システムに参加する人が増えるほど、その利用価値は増大する。さらには、決済が社会にとっての公益事業だとみなされる可能性もある。こうした点を考慮すると、国家にはまさに決済市場で果たすべき役割があると私は考える。具体的には、決済市場が円滑に機能し頑健性を確保するために必要なインフラの整備あるいは規制を行う役割だ。

市民は、決済市場がいくつかの基本的要件を満たしていると期待できるだろう。第一に、決済サービスは広く利用可能なものでなくてはならない。第二に、決済インフラは安全かつ安定

スウェーデンでは急速にキャッシュレス化が進んでいる。デビットカードや、個人間でリアルタイム送金が可能なモバイル決済アプリ Swish を利用する人々が増加傾向にあり、現金需要は過去10年間で50%以上減少している。全銀行の半数以上の店頭では、もはや現金は扱われていない。消費者の10人中7人が、現金がなくてもやっていけると述べている。一方で小売り業者も、その全体の半分が2025年までには現金の受付を停止する予定だ（アヴィドソンほか 2018）。消費者の決済行動に関するスウェーデン国立銀行の2018年の調査結果によると、現金決済は店舗での支払いのたった13%に過ぎない。

銀行間の大口決済用のデジタル・ソリューションは以前から利用されているが、目新しいのは、それが個人間の少額支払いにまで浸透してきた点だ。そして、これはスウェーデンだけに見られる現象ではない。アジアやアフリカでも、イン

## 現代の電子決済市場において、 決済手段の提供者としての中央銀行は必要だろうか？

したものでもなくてはならない。売り手も買い手も支払指図が実行されると確信が持てなくてはならない。これは、人々が決済システムを利用しようと思う上で必要条件となる。第三は効率性である。決済は迅速かつ可能な限り低コストで実行されるべきで、システムは単純で利用しやすいものだと認識される必要がある。

では、私たちはこうした要件を満たしているだろうか。私は、この問いに対してははっきり「イエス」と答える自信がだんだんなくなってきている。

もし紙幣や硬貨がもうすたれてしまったとすると、近い将来、人々は国家が保証する支払手段を利用できなくなるだろう。そして民間部門が、存在する決済方法の利用可能性や技術開発、価格設定の面で、より一層の支配力を行使するようになるだろう。現時点で、これがどのような影響をもたらさるかを述べることは難しい。しかし、現金以外の支払手段を今持っていない層の人々を試みれば、金融サービスを受ける機会がさらに限定されるようになる可能性は高い。また、国家が決済インフラに参加しなければ、決済市場の競争が緩和し、決済インフラの冗長性が低下してしまうだろう。今日では、現金が唯一の法定通貨として当然の地位を有しているが、キャッシュレス社会において法定通貨とは何を意味することになるのだろうか。

この点に関して、各国の中央銀行は一般向けにデジタル通貨の発行を始めるべきだろうかと考える人もいるかもしれない。これは複雑な問題で、各国の中央銀行は今後何年も頭をかかえることになりそうだ。私は、この問いかけを仮定の問題ではなく実際の問題として取り組んでいる。今後10年も経たないうちに、スウェーデンだけでなく世界の多くの場所で、ほぼ例外なく支払いをデジタル決済で行っていると確信している。今日でさえ、少なくともスウェーデンでは、若者はほとんど全く現金を使わない。こうした人口構造の要因も、キャッシュレス化を食い止めること、また逆行させることもできないと私が信じる所以である。キャッシュレス化の先頭を切っているのは北欧諸国だが、これはここだけで起こっている現象ではない。例えば、中国の決済市場がいかに急速に変化しているかを見てみると興味深

いものがある。

そして暗号資産が登場した。世間では通貨と呼ばれているが、私はこれらを貨幣とはみなしていない。なぜなら、支払手段、勘定単位、価値保存という貨幣としての本質的な3機能を果たしていないからである。この点に関しては、私の同僚のほとんどが同じ意見である。暗号資産が果たした主要な貢献は、ブロックチェーンの技術やスマートコントラクト、暗号ソリューションを用いた新しい方法で金融インフラを構築できることを示したことだ。こうした新技術は興味深く、おそらく長い目で見ると付加価値を生み出す可能性もあるが、暗号通貨は一般的な通貨ではなく資産であり、しかもリスクの高い投資であることを各国の中央銀行が明確にすることが重要である。この点を中央銀行が明確に伝えれば、それだけ不必要なバブルの発生を将来未然に防げる可能性は高くなる。また、この比較的新しい現象に対する各種規制枠組みや監督の必要性を検討しても良いかもしれない。

デジタル化、技術の進歩、そしてグローバル化は、経済面で社会全体の厚生を増進させる好ましい展開であり、これは言及に値する。今後どのような決済サービスが新しく開発される可能性があるかは推測の域を出ないが、今後、私たちが直面する課題がいくつか存在する。主な課題には、社会に対して国家が保証する支払手段の供給を停止できるかというものがある。別の課題としては、リテール決済用のインフラを完全に民間市場に移行させるべきかどうかという問題だ。国家は、こうした分野で自らが果たすべき社会的責任を放棄することはできない。だが、その新たな役割はまだ鮮明になっていない。FD

**ステファン・イングヴェスはスウェーデン国立銀行（中央銀行）総裁。**

### 【参考文献】

- Arvidsson, Niklas, Jonas Hedman, and Björn Segendorf. 2018. "När slutar svenska handlare acceptera kontanter?" ("When Will Swedish Retailers Stop Accepting Cash?") Research Report 2018:1, Swedish Retail and Wholesale Council, Borås.
- Gorton, Gary B. 2012. *Misunderstanding Financial Crises: Why We Don't See Them Coming*. Oxford: Oxford University Press.
- Schabel, Isabel, and Hyun Song Shin. 2018. "Money and Trust: Lessons from the 1620s for Money in the Digital Age." BIS Working Paper 698, Bank for International Settlements, Basel.
- Sveriges Riksbank. 2018. "The Payment Behaviour of the Swedish Population." Stockholm.